

夜汽車
原 君子

夜も更け布団に入るところ

ゴトゴト ゴットンゴットン ゴトゴトゴト

遠くから 夜汽車の通る音が響いてくる

名古屋と亀山を結ぶ関西線は 私の大切な足

嫁いだ娘から誘いの電話

井田川駅から かなり遠い

田舎育ちの私 身を引き締める

ビルと街路樹が美しい

娘に頼って地下街の店を覗く

レストランで嬉しい会話

知らぬ間に夕刻になっていた

「見送るわ」「又会おうね」

階段の真ん中に立ち 手を振り続ける

ホームを駆け上ると汽車は待機していた

後は 一直線だ

ポー ゴットン 名古屋駅を出発

窓越の灯は 後へ後へと数を落していく

やがて続く田園の闇 橋を渡り

コトコトコト コトコトコト コトコトコト

眠りを誘う

「井田川」「井田川」

車掌の声に目が覚め

ホームへ飛び降りた

亀山駅へ向う 汽車の後尾の

二つの赤い灯が だんだんと

小さくなっていった